



医療経営士ニュース | これからの医療現場を担う経営人材のための機関紙

MMS NEWS

2026

8

月号

Vol.186

毎月1回発行(通巻186号)
編集:日本医療企画一般社団法人日本医療経営実践協会 〒104-0042 東京都中央区入船3-8-7 ザ・ロワイヤルビル5階 TEL.03-3553-2906 <http://www.JMMPA.jp/>

厚労省が医療経営改革課を新設 医療改革を牽引する存在として 高まる医療経営士への期待

8月4日に厚生労働省組織令及び社会保障審議会令の一部を改正する政令が施行され、医政局に「医療経営改革課」が新設された。医療経営の改革がより強力に進められていくであろうこの状況を、医療経営士への追い風としていきたい。

医療機関の経営危機に どう立ち向かうのか

これまで厚生労働省医政局には「医療経営支援課」が存在していたが、今回の組織令改正に伴い同課が医療機構運営支援課に改組・改称され、新たに「医療経営改革課」が設けられた。初代課長には前保険局医療課保険医療企画調査室長の吉田拓野氏が就任している。

8月4日付の厚生労働省医政局長通知に改正の概要が掲載されている。それによると内部組織の見直しについては、「高齢化や生産年齢人口減少の進行により、高まる医療ニーズに対応する良質で持続可能な医療提供体制が必要となっている」なか、賃上げや物価上昇への対応等によって医療機関の経営が厳しい局面にあり、「生産年齢人口の減少により、医療人材の確保が困難を極めている状況を踏まえ」たものとされている。

医療経営改革課の目的と

としては、「業務効率化・勤務環境改善に取り組む医療機関を支援するため」に、医療機関の経営改革に関する業務を所掌するとなっている。

今回の改正で、医療機関としてはこれまで以上に医療DXも含めた業務の効率化を進め、働き方改革等による勤務者の勤務環境の改善に取り組むことが求められるだろう。医療経営士としても向き合うべき課題が明確になったと捉え、しっかりと取り組んでいきたい。

桑原寛・医療経営企画室長、 全国大会の特別講演に登壇

11月21・22日に開催される、第15回「全国医療経営士実践研究大会」東京大会では、初日「プログラムにおいて、特別講演」として医療経営改革課医療経営企画室長の桑原寛氏が登壇する。

講演タイトルは「病院の経営危機に何をすべきか——医療経営人材に期待すること(仮)」。

経営危機において医療経営人材は何をすべきなのか、医療経営人材に対して厚生労働省はどのような役割を期待しているのかが語られるだろう。

この「医療経営人材」には当然、医療経営士も該当する。この特別講演は、医療経営士に向けた厚生労働省からのエールと考えることもできる。医療経営改革課の新設というタイミングで桑原氏に登壇いただくということは、非常に大きな意味があると言える。ぜひ会場で桑原氏の言葉をしっかりと受け止め、医療経営士として活動していくための今後の指針としていただきたい。

大会への参加は特設サイト(<https://conference-jmmpa.jp/>)から申し込みを受け付け中。プログラムの詳細についても同サイトで情報を随時更新しているのでチェックしていただきたい。



全国医療経営士実践研究大会に特別講演で登壇する医療経営改革課医療経営企画室長の桑原寛氏

第15回

全国医療経営士実践研究大会

東京大会

開催日

2026年
11月21日(土)
22日(日)大会
テーマ

地域とともに歩む社会性豊かな 医療の実現

——病院経営が危機的状況にある今こそ、医療経営士は一致団結し、使命感を持って地域医療の崩壊をくい止めよう！

会場

ステーションコンファレンス東京

参加申込は大会特設サイト
から受付中

T O P I C S 神奈川研究会が「合格者のつどい」を開催

かけがえのない仲間とともに 医療経営士としての第一歩を

日本医療経営実践協会関東支部神奈川研究会は8月20日、かながわ県民センターにおいて「合格者のつどい」を開催した。7月14日に合格発表が行われた、第48回「医療経営士3級」資格認定試験の合格者を中心に約20名が参加、医療経営士としての第一歩を踏み出した。

研究会の歴史を紐解き 医療経営を学ぶ意義を説く

「合格者のつどい」は医療経営士3級試験の合格者を対象として開催される研究会。試験には合格したものの、医療経営士として今後どのような活動をしていけばよいのかわからないという方に、自身の医療経営士としての将来像をイメージしてもらった場となっている。関東支部神奈川研究会では昨年の8月以来、3級資格認定試験の合格発表後のタイミングで開催を重ねており、今回が4回目となった。

冒頭のあいさつに立った同研究会事務局の船山和紀氏（株式会社日医リース）は合格者に対してお祝いの言葉を述べた後、「医療経営士として今後何をしたいのか、どうやって学んでいけばよいのかをイメージできる機会にしたい」とメッセージを送った。

（一社）日本医療経営実践

協会事務局より医療経営士の資格制度及び協会活動についての紹介が行われた後、神奈川研究会事務局の青木大介氏（社会医療法人財団石心会川崎幸病院）が登壇。これまでの神奈川研究会のあゆみについて紹介した。

青木氏は、まず「なぜ医療経営を学ぶのか」という問いを提示。人口動態が大きく変化し、社会保障給付費も拡大するなかで、医療分野は市場規模としては非常に大きく、活躍の場があるフィールドであるとしたうえで、「経営を学んだ医療経営士が活躍すれば医療機関の経営が安定し、保険医療を守ることができる。ひいては自分たちの子どもの世代に良い社会を残すことにもなる」と経営を学ぶことの重要性を強調。身近で定期的に経営を学べる場として、神奈川研究会が設立された経緯を語った。

や病院経営のボードゲームを使った研究会等、多岐にわたる活動について同研究会事務局のメンバーからの報告も行われた。最後に青木氏は「今日参加していただいた皆さまが積極的に研究会に参加していただくことで、さらに活動が広がっていくことを期待したい」と訴えた。

同期の医療経営士との絆がこれからの大きな支えに

講演後には参加者がグループに分かれ、自己紹介と医療経営士を受験した理由、これからの抱負等を語り合った。医療機関、関連企業、金融機関等それぞれ異なるバックボーンを持つ参加者同士が、医療経営についての意見を交換し、医療経営士としての「志」を共有する貴重な機会となり、予定時間を超える盛り上がりとなった。参加者からは「熱意を持って取り組んでいる方が参加されていることがわかってよかった」「顔の見える関係づくりができて幸い」といった声が聞かれた。



グループセッションは予定時間を超える盛り上がりとなった

資格者として活躍している方から直接聞ける貴重な機会であるだけでなく、同じ試験に合格した「同期」「同志」と出会う場所でもある。同期の医療経営士とのつながりは非常に大切なネットワークとなり、いつでも相談できる仲間の存在は、仕事のうえで困難にぶつかったときに大きな支えとなるはずだ。

現在、定期的に開催しているのは神奈川研究会のみとあって、今回は長野県や鹿児島県といった遠方からの参加者も目立った。全国の地域支部・自主研究会でそれぞれ開催できれば、合格者もより気軽に参加でき、研究会活動の活性化にもつながるだろう。協会としても開催を支援する体制を強化していきたい。

最新医療経営

最新情報を踏まえ新たな病院像を描く
「経営の時代」の羅針盤
PHASE3
フェイス・スリー

9月号
好評
発売中

特集

医療団体トップ8人の主張

—— 課題解決の処方箋、地域医療の未来を見据える ——

2026年度診療報酬改定が施行され、医療機関等では新たな対応がスタートした。30年ぶりの高水準と言われる改定率となったものの、経営環境はかつてなく厳しく、道のりは前途多難。医療界の代表者の一人でもある医療団体のトップは、目の前に広がる荒波をどう乗り越え、そしてどのような提言をしているのか。役員改選で新たに誕生した会長・理事長をはじめ、未来を託された8人の医療団体トップの生の声から、山積する課題解決のための処方箋や地域医療の未来を読み解く。

詳細・ご購入は
コチラ



神奈川研究会がスピノフイベントを開催

研究会からスピノフが派生 組織についての考えを深める



日本医療経営実践協会関東支部神奈川研究会は6月26日(金)、定期で開催している研究会のスピノフ企画として、「ティール組織から考える人が活きる組織とは？」をテーマとした勉強会を開催した。勉強会の内容と合わせて、研究会からスピノフ企画が生まれるまでの経緯について紹介する。

理想の組織を考えていくなかで 新たな視座を提供する場をつくる

今回開催された勉強会は、「理想の病院における『組織の在り方』を考える」をテーマに、5月に開催された定例研究会のスピノフとして企画されたもの。これまで60回を超える研究会を開催してきた神奈川研究会で、開催後に参加者から声が上がってスピノフ企画が実現したのは初めてのケースだ。

その理由として、同研究会の世話人代表を務める金城悠貴氏(済生会神奈川県病院)は、「組織というテーマが参加者に響いたのではないか」と言う。「研究会では参加された皆さんからさまざまな意見があり、組織の捉え方や理想の組織像についていろいろな見方があることがわかりました。皆さんにとっても刺激になったようで、終了後に『もうちょっとこの話をしたい』というメッセージをもらい、後日改めてオンラインで意見交換をした方もいました」(金城氏)

そのようななかでスピノフ企画の手を挙げたのが、病院の組織開発に取り組んでいる荒井ゆき氏(株式会社メディリリーフ)だ。そのきっかけについて荒井氏は、「研究会に参加していて、私たちは『仕組みを変えれば組織はよくなる』という世界観に慣れすぎているのではないかと感じた」ことだと話す。

「もちろん仕組みや制度は大切ですが、それだけでは人が活きる組織にはならないように感じています。研究会では『どういう仕組みを作れば部下のモチベーションが上がるのか』といった管理を前提とした話が多く、そうではない別の世界観を紹介できないかと思いました。そこでティール組織という考え方を手がかりに、『人が活きる組織とは何か?』という問いに皆で向き合う場をつくったら新たな視

座を得ることができるのではないかと考え、事務局メンバーの皆さんに相談させていただきました」(荒井氏)

その結果、スピノフ企画として勉強会が実現。済生会神奈川県病院で開催された勉強会は荒井氏がファシリテーターを務め、神奈川研究会事務局のメンバーを中心に10名が参加した。最初に「今日の勉強会で何を学びたいのか」を各自が共有し、その後「組織は何にたとえられるか?」「これまでに人が活きていると感じた組織はどのようなもの?」など荒井氏が提供するテーマについて参加者が自身の意見を述べ、他人の意見を聴き、感じたことを発言し合う、という流れで進行。最後に「今日の気づき」や「明日から試してみたいこと」を共有し、閉会となった。

一度の研究会開催で終わらず さらに学びを深めていくために

荒井氏はこの日の勉強会について、「組織の全員が自然と学びが起こる組織文化をつくり、組織を一つの生命体として進化させていく世界観を紹介できたのではないかとし、「参加者一人ひとりが問いを立てて自分ごとにすることで、想像もしていなかった視点が得られ、視野が広がります。この勉強会をきっかけとして、

参加された方々が現場に戻って世界を開いていくという確かな期待が持てました」と語った。

同じ「組織」というテーマでありながら、最初の研究会では「どのような組織にするのか」といった仕組みや構造の話、スピノフ企画では組織に参加する一人ひとりの意識や考え方についての話となり、異なる側面から組織を捉えられたことに大きな意義があったと言える。

金城氏は「研究会の後、『テーマについてもっと深掘りしたい』『別の角度から考えてみたい』といった意見が出てくるのは大歓迎ですし、そういう声に参加者のなかから自主的に生まれてきた今回のケースは、一つの参考事例になるのではないかと話す。現在、全国各地、さまざまなテーマで医療経営士の研究会が開催されているが、開催すること自体が目的となってしまうのは、真の目的を見失ってしまうことにもなりかねない。参加してそれぞれのテーマについて学んだら終わりということではなく、大切なのはそこからさらに学びを深め、自分のなかでしっかりと消化していくという主体的な姿勢だろう。一人ひとりが学びへの向き合い方を考えていくことで、支部研究会のさらなる進化を期待したい。



スピノフで開催された勉強会は参加者一人ひとりが主体的に学ぶ場

事務局掲示板

医療経営士の所属をPRしよう！
所属先の掲載ご協力をお願い

当協会のホームページでは、会員の皆さまから掲載の同意をいただいて、医療経営士が所属する医療機関・企業名を公開しています。

医療機関の抱えるさまざまな経営課題を迅速かつ確に解決できる能力を持った医療

経営士の所属先を公開することで、経営力を持った医療機関であること、医療機関のマネジメントを支援できる人材を有する企業であることをアピールすることができます。掲載の同意をいただける方は、下記URLからご登録ください。

【登録内容変更のご案内】

<http://www.jmmpa.jp/support/cat108>

知っておきたい「医学の基礎知識」を
DVDとテキストで効果的に習得できる
「医療経営士」基礎力UP講座

当協会では医療経営士として知っておきたい医学の基礎知識を効果的に学べる「基礎力UP講座」を開講しています。テキストとDVDを通して事務職や他業種の方が、医療専

門職との連携やコミュニケーションにおいて必要不可欠な医学知識や医療用語を平易かつ効果的に学習できる仕組みになっています。詳細はホームページにてご確認ください。

【医療経営士「基礎力UP講座」】

<http://www.jmmpa.jp/support/tsushin/up/>



PICK UP研究会

本協会後援

福岡と大阪の2会場で開催

医療機関の情報セキュリティ対策セミナー

今年6月末に公表された「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン7.0版」を解説する情報セキュリティセミナーを、九州と大阪の2カ所で開催する。

基調講演①として九州・大阪の両会場とも、同ガイドラインの改定作業班で座長を務めた、国立がん研究センター情報統括センター長の田中勝弥氏が登壇し、改定のポイントについて解説する。さらに基調講演②として、九州では「生成AI時代のDX戦略と情報セキュリティ」をテーマに九州大学病院メディカル・インフォメーションセンター准教授の山下貴範氏、大阪では「攻撃の可能性を否定できない中での初動判断」と題し市立奈良病院診療情報管理室の桑田成規氏が登壇する。

その他、医療機関の取り組み・課題を共有するパネルディスカッション、セキュリティベンダー各社による最新のソリューション及び医療機関における導入事例の解説、組織や立場を超えてネットワーク形成できる情報交換会を予定している。

【開催概要】

- 日 時
2026年 9月9日(水) 13:25～17:40(福岡会場)
2026年10月9日(金) 13:25～17:40(大阪会場)
- 会 場
大名カンファレンスLinkRoom2+3
(福岡市中央区)(福岡会場)
TKPガーデンシティ PREMIUM大阪駅前
(大阪市北区)(大阪会場)
- 参加費
無料(福岡・大阪会場とも)
- 定 員
50名(福岡・大阪会場とも)
- 主 催
株式会社日本医療企画
- 協 賛
サイバーリーゼン合同会社／
株式会社ソリトンシステムズ
- 企 画
株式会社オーバル・アドバタイジング
- 後 援
一般社団法人日本医療経営実践協会
- お問い合わせ
株式会社日本医療企画 九州支社(092-418-2828)

大阪会場

福岡会場



お申込みは
こちらの
QRコードから

日本医療経営実践協会 支部研究会スケジュール

開催日	開催支部	テーマ	講師
9月9日(水)	本部後援	医療機関の情報セキュリティ対策セミナーin福岡 「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン7.0版解説セミナー」	田中勝弥 氏(国立がん研究センター情報統括センター長) ほか
9月11日(金)	関東	第6回多摩研究会 コメディカルが経営を学ぶと仕事の景色はどう変わるのか？(全3回) 第1回 経営の視点が増えると理学療法士の業務管理も楽になる	小林宏彰 氏(医療法人社団永生会永生病院理学療法士／ 医療経営士3級)
9月12日(土)	関西	第42回関西医療経営勉強会 「急性期病院の現場を支える組織づくり ～新米院長が経験した課題とその向き合い方～」	大久保和俊 氏(社会福祉法人京都社会事業財団京都桂病院院長)
9月18日(金)	関東	第64回神奈川研究会 「診療所と病院の理想のパートナーシップとは？(仮)」	※参加者同士のディスカッション形式で開催
10月9日(金)	本部後援	医療機関の情報セキュリティ対策セミナーin大阪 「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン7.0版解説セミナー」	田中勝弥 氏(国立がん研究センター情報統括センター長) ほか

※日程等は変更になる場合があります。詳細は協会ホームページでご確認ください。

秋からの中途採用者の研修に最適！ オンデマンド職員研修講座シリーズ

好評配信中！

日本ヘルスケア
経営学院

公開講座

新入職員研修
ミドルマネジャー研修

WEB講座

講座概要



●講師
石井富美氏
(多摩大学医療・
介護ソリューション
研究所副所長)

【新入職員研修WEB講座(全6回)】

●講義時間… 各回約20分
●受講料… 各回 :1,100円
3回セット :2,750円
全6回セット :4,950円

【ミドルマネジャー研修WEB講座(I/II)】

●講義時間… 講座I：約120分／講座II：約90分
●受講料… 講座I：7,150円／講座II：5,500円／
I・IIセット：11,000円

※講義終了後に内容の理解度が測れる「確認テスト」付き ※受講料はすべて税込



【お問い合わせ先】日本ヘルスケア経営学院 事務局(日本医療企画内) ☎03-3553-2862 <https://hcmi-s.net/>